

令和3年度国際文化交流学部 学校推薦型選抜 一般推薦 課題作文 出題意図

公立小松大学国際文化交流学部では英語、中国語を必修にしている。英語はすでに国際語となって久しく、また中国の勢力拡張に伴って中国語の国際的地位も高まっている。その一方で、世界には存亡の危機に瀕した言語(“危機言語”と呼ばれる)も多く、その数は年々増えつつある。もともと使用人口が少なかった言語はいうまでもないが、文中に挙げられた満州語の例は、一定の使用人口を有した言語であっても、国家という制度の後ろ盾がない場合は脆いことを示している。

進学、就職、さらに卒業後の仕事でも不利になるのであれば、母語でない優勢言語(dominant language)を習得せねばならない。また、侵略や国家の強制によって民族語が奪われるという事例は過去にも現在にもある。それらは、「祖父母の世代の母語が子孫に継承されないことの背景、原因」である。これらのことを述べた上で、受験生一人一人の母語・日本語に対する考えと関係づけて「大学で英語や中国語を学ぶ意義」を述べることが望まれる。なお、受験生の国籍と母語がそれぞれ日本、日本語でない場合もありうるので、自分のケースに即して書けばよい。